

□議員名：白井健一郎

1 学習障がいの中学生に対する試験時間延長措置

論点	WISC(知能を測る検査)で学習障がいがあるとされた中学生に対する合理的配慮(改正障害者差別解消法)として、定期試験の時間延長は認められないか。
回答	障がいのある生徒が特別な配慮や支援を希望した場合、学校としては様々なことをしんしゃくし、実施が可能であれば学校行事や授業等の教育活動において合理的な配慮や支援を行う。可能な範囲で時間延長をすることになると考える。

論点	このような生徒が高校入試を受験する場合、時間延長という合理的配慮を市から高校側に要請できないか。
回答	公立高校の受験について、所管する県の高校教育課によれば、令和5年度の入試要項には合理的配慮の申請について記述しており、昨年度も複数の事例があり、受験生の状況に応じた対応が行われた。公立高校と私立高校とも受験時において障害者差別解消法の趣旨に従い合理的配慮を行うことを、県の所管課に確認している。

論点	合理的配慮の前提となる「建設的対話」についてどう考えているか。
回答	双方で解決を模索すべく重ねていく会話だと捉えている。建設的な対話がなされているかどうかについては、少なくとも他の子供には認めていないとか前例がないとかという理由のみで否定してはいけないと考える。

論点	インクルーシブ教育に対してどのような考えを持っているのか。
回答	インクルーシブ教育とは、障害の有無だけではなくて、一人一人の特性を理解して、児童生徒に必要な支援や配慮を行う視点が大切だと考える。お互いを認め合い、尊重することはなかなか難しいことではあるが、必要な場面で必要な支援を行うことが求められている。インクルーシブ教育を実践し、多様な人々と共生できる社会を目指したいと考えている。

2 理科大と本市との地域連携

論点	小中高と理科大との連携の実績はどうなっているか。
回答	理科大が持つ人的・物的資源を活用した本物の科学体験の機会を提供し、児童生徒の物質やエネルギーに関する関心を高め、意欲の向上を図る「ほんものの科学体験講座」を実施しているほか、出前講座、大学訪問、学生による学習支援ボランティア、中高のリカレント教育等々、数多くある。

論点	市民と理科大との連携の実績はどうか。
回答	理科大は教育と研究と地域貢献が一体化した生涯教育の充実を基本理念に掲げており、学生だけでなく、市民や社会人が集う地域に開かれた大学を目指すこととしている。専門知識を広く提供・発信する「大学開放授業」を開催している。また、地域の方に大学を身近に感じてもらうことを目的に「大学開放デー」も開催している。

論点	企業と理科大との連携の実績はどうか。
回答	企業から研究者や研究経費等を受け入れ、共通な課題に対して大学教員と企業の研究者が共同・分担して研究に取り組む共同研究や、企業からの委託を受けて研究を行い、その成果を委託者に報告する受託研究に取り組んでいる。また、産学官連携推進協議会を設置して、大学からの技術移転の促進や新しい産業技術を創出できる環境の形成等を目指している。

論点	本市における知の拠点、地域の拠点としての理科大の貢献の実績はどうか。
回答	理科大は知の拠点として、地域産業の進行や地域課題の解決に貢献することを目指して、地域課題解決研究事業に取り組んでいる。研究成果発表会においては、教職員や学生だけでなく、市職員や商工会議所、市内企業から計100名以上の参加があり、活発で熱心な質疑応答と意見交換を行っている。また連携事業は、市の担当課が大学との連携を希望する事業と、大学が市との連携を希望する事業

	を企画課が取りまとめて調整しており、令和５年度の実績は、市から大学に連携を依頼した事業が５７事業、大学から市に連携を依頼した事業が１２事業の計６９事業を実施している。ほか、多くの教職員が市の附属機関やその他会議の委員に就任していただき、まちづくりにも参画いただいております。令和５年度に市が行ったDX協創プラットフォーム形成事業では、スマートシティの実現に向けた取組をどのように進めるべきか検討する中で、専門的な知見から課題の洗い出しやその対策などアイデアをいただいております。
--	--

論点	「地域を創る」観点から、市は今後、理科大に何を求めていくのか。
回答	中山間地域づくりへの参画支援や、LABVプロジェクトを契機とした中心市街地におけるにぎわいづくりの検討、さらには消防団への理科大生の加入など、将来にわたって持続可能な地域を構築するために必要な地域の活力増進に向けて、市と連携しながら取組を進めている。また今後は、大学と各地域の地域運営組織との間でも様々なつながりが生まれ、街中で先生方や学生たちの活躍する姿を目にする日が来ることも期待している。総合計画において、大学との連携を横断的施策に位置づけているので、様々な分野で様々な主体と連携し、役割を果たしていただいている。